

くそおきいせき 12. 糞置遺跡

所在地：福井市半田町

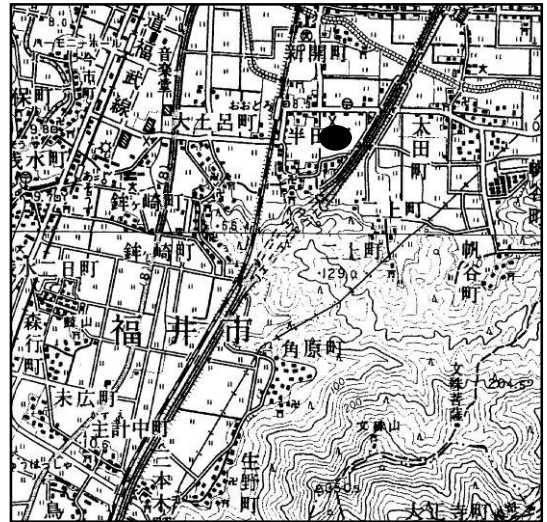
調査原因：主要地方道清水美山線道路改良工事

調査期間：平成 21 年 10 月 6 日～12 月 25 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：2,300 m²

時代：弥生時代・近世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 糞置遺跡の位置する福井市半田町周辺は、東に北陸自動車道、西に J R 北陸本線、さらには国道 8 号線、福井鉄道福武線、旧国道 8 号線が走り、嶺北地方北部と南部を結ぶ交通の要地です。この地を東西に走る主要地方道清水美山線は、J R 北陸本線の半田踏切にて通勤時間帯の渋滞が著しく、J R 大土呂駅前とはとくに幅員狭小のため自動車のすれ違いが困難でした。このため、安全交通の確保、合併市町間の交流促進を図ることを目的に、福井土木事務所では、踏切の立体交差化を含むバイパスを整備する工事が計画されました。

半田町を含む文殊山北麓には、奈良時代に東大寺領荘園糞置荘が設置され、正倉院に伝わる 8 世紀に描かれた 2 枚の絵図は、現在の景観と一致することで荘域が比定可能なことで著名です。調査範囲は、周知の遺跡である糞置遺跡に含まれます。糞置遺跡は昭和 48・49 年度には北陸自動車道関係に伴う発掘調査が、最近では平成 13 年度に農道整備、平成 14・15 年度には圃場整備に伴う発掘調査が行われており、豊富な遺構・遺物が確認されています。今回の調査区は、平成 14 年度調査区②区（現在は農道）北端に接する東西 230m、幅約 10m におよびます。調査地は農道でしたが、農道敷設以前は耕作地であり、近世以降の削平および耕作により、近世以前の遺物包含層はほとんど残っていませんでした。

遺構 調査により検出した遺構は、溝 8 条、井戸 2 基、土坑 35 基、ピット約 50 基です。また、島の耕作痕と考えられる畝状遺構がほぼ調査区全面に広がっていました。土坑は、東西に長い調査区の中央付近と西部に集中していましたが、少量ながらも遺物を含む土坑は中央付近に限られ、その範囲は調査区外に続く弧状の溝に囲まれた状況を呈しているようです。この溝が集落の内と外を区切る境となると考えられるでしょう。土坑の性格としては、土坑墓が考えられます。この区域以外の遺構は総じて浅く、遺物も出土しない遺構が多く、建物跡は確認できませんでした。また、井戸 2 基は調査区西方に隣接して掘られており、断面が円筒形を呈し、井戸枠などの構造物を持たない素掘り井戸です。その内の井戸 1 からは近世の越前焼の播鉢 1 個体が廃棄されており、井戸の覆土は畝状遺構と同様のものであることから、この井戸は耕作における灌漑用の簡易な井戸と考えられます。

遺物 今回、調査で出土した遺物は少量でした。溝・土坑からは弥生時代中期の土器・石

器が少量出土しています。溝5から出土した石器には木材加工用に使われたと考えられる扁平片刃石斧があります。その他、近世に属すものには井戸から出土した越前焼の播鉢、ピットから出土した石臼片があります。

まとめ 当地はおそらく弥生時代中期の集落の北端にあたると考えられます。当時の集落は北陸自動車道から文殊山北麓の現在の半田町集落に広がっていたと考えられます。また近世以降は畑地が広がっていたようです。 (野路昌嗣)



調査区全景（東から）



溝5 遺物出土状況（南東から）



土坑3 上面出土土器（南から）



溝1（南東から）



井戸1 遺物出土状況（北から）